

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	教材紹介-理工学を学ぶ人のための『科学技術日本語案内』 -
Title(English)	Teaching Materials guide-Handbook of Scientific and Technical Japanese
著者(和文)	仁科喜久子
Authors(English)	KIKUKO NISHINA
出典(和文)	月刊日本語9月号(アルク), Vol. , No. , pp. 73
Citation(English)	The Monthly Nihongo (ALC), Vol. , No. , pp. 73
発行日 / Pub. date	1992, 9

初級段階からでも 専門用語が学べる

「理工学を学ぶ人のための
『科学技術日本語案内』」

評者：仁科喜久子

この書は慶応大学の工学の専門家と日本語教育の専門家によって1986年から研究試作され、完成した労作である。本書は次のような人々を対象としている。(1)ある程度の読解能力を持ち、自習しようとする理工系留学生、(2)理工系の学生に教える日本語教員、(3)自分で教材を作成しようとする理工系の教員。

本書の体裁としては振り仮名と英訳が全体について、自習用としても使えるようになっている。構成は、第1章「用語」、第2章「表現」、第3章「文章」からなっており、各章の終わりに練習問題がついている。つまり第1章は語彙レベル、第2章は構文レベル、第3章はディスコースレベルを扱っている。

第1章の内容は基本科学技術基礎語彙の習得を目標とし、(1)基本的な記号・用語 (2)表・図・道具・装置の用語 (3)状態を表す用語 (4)基本的なカタカナの4項目からなっている。用語は図や表を多く用いて提示しており、読み仮名と英訳を付し、さらに解説と用例を付けている。すでに母国語で専門分野の知識をもっている大学院レベルの学生は、既知概念に日本語を対応させて理解することができる。学部留学生のように日本語によってはじめて専門用語を学ぶ場合には、解説が参考書として助けになる。

第2章では科学技術文によく見られる文型を取り上げ、前章と同じく、文型提示の後、解説、用例がある。文型は「比較、対比、類似、原因・結果、根拠、構成・列挙、提示、定義、分類、仮定条件、状態の変化、変化の仮定、前提付き変化、手段・方法、選択」の15項目に分けられ、さらに具体的な文型として240の細項目の提示がある。この提示法には

イラストによって道具の名前がより
鮮明に理解できる



山崎信寿、富田豊、平林義彰、羽田野洋子共著
創拓社/1992年3月発行/¥4,500/B5判、347ページ

長年の研究分析と経験の蓄積が反映されていることが見て取れる。

第3章は文章の作成に関するもので、レポート表現・文体の習得、レポート作成の基本として「目的、実験方法、考察、結論、参考文献、付録、理論、計算方法」などの項目に分かれるが、ここではディスコースレベルで文型提示、解説、用例を示している。

この書は中上級向きに作成されたと序にはあるが、初級の段階からでも利用することができる。例えば文レベルの学習が完了していない初級者でも第1章の図から専門語彙を学ぶことができる。第2章には比較、対比など初級でも可能なものがあるが、大部分は中級程度で使われ始める。第3章は初級の文型を一応学習した段階で使うのがよからう。用例は、ややむずかしいものがあり、教室で専門教師の説明があると更に効果的と思われる。

この他に25項目のコラムが全章中の随所に配され、科学技術日本語文章の読み書きに役立つ様々な知識が得られるようになっている。これは学習者、日本語教師、理工系専門家それぞれの立場で学ぶところがあるものになっている。

専門分野の教師と日本語教師の協力による教材としては、筆者の知る限りでは先例のない画期的なものであり、文系出身の多い日本語教師にとっては貴重なガイドブックになるであろう。



(にしな きくこ) — 東京工業大学留学生教育センター助教授

